

資生堂の研究により生まれた水稲用肥料
コメとれーる®

「特殊肥料登録」

暑く乾燥の夏こそ！コメとれーる®

自然由来の新しいバイオスティミュラント資材
特許第 6628481 号



根が太く！

元気に育ち！

収穫に満足！

日本中の

どんな場所でも！

どんな時期でも！

どんな品種でも！



浸種するだけの
簡単な使用方法！

コメとれーるのメカニズムとは

「コメとれーる」は、水田に繁殖する浮標植物（アオウキクサ）から抽出した物質（KODA）で、特性としては、高温、低温、乾燥などのストレス抵抗性物質です。「コメとれーる」を、1回水稻の種籾に浸種することで、高温耐性を向上させ猛暑のストレスを回避させるのに期待できます。

特徴と効果

育苗の時期（播種後～田植前）

- ① 苗の健全化・生育促進
- ② 根張の充実

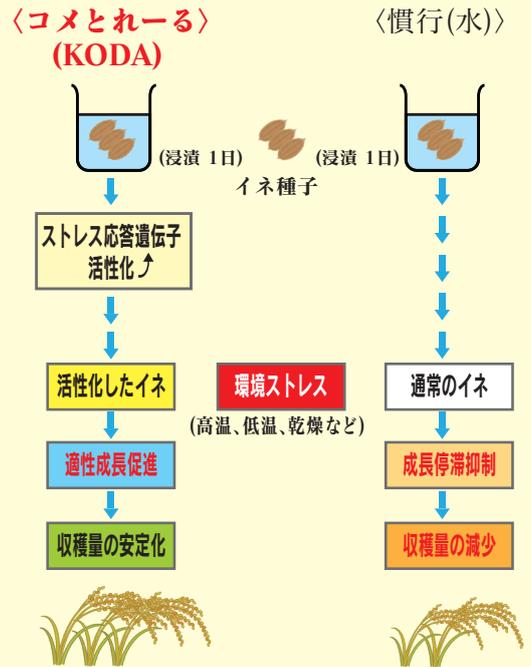
田植後の生育時期（田植～収穫前）

- ① 田植時の植傷みのストレス軽減
- ② 初期分蘖数の確保
- ③ 有効茎数・穂数の充実確保

収穫調整時期（収穫～仕上調整）

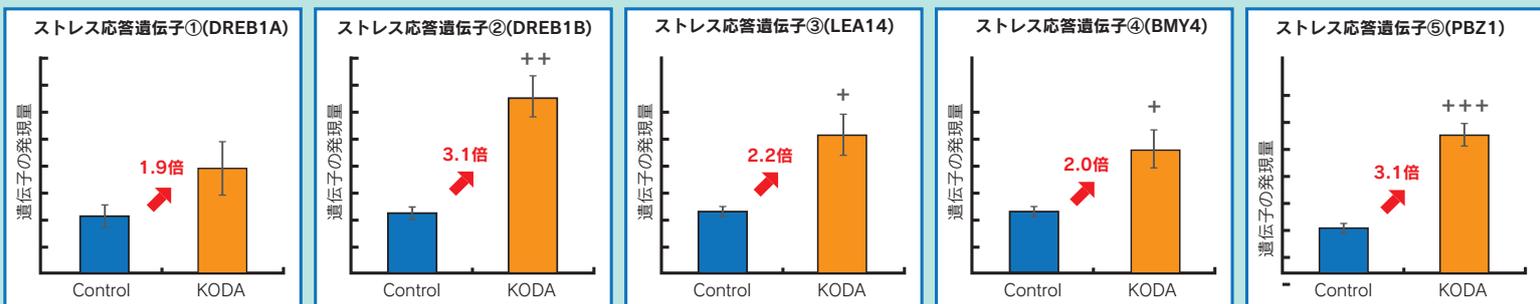
- ① 千粒重の充実、屑米の減少
- ② 整粒歩合の向上
- ③ 精玄米、収量の向上

コメとれーる作用機序（環境ストレス耐性）



「コメとれーる」による環境ストレス耐性で安定した収穫に貢献します！

活性化するストレス応答遺伝子



■ストレス応答遺伝子の特徴

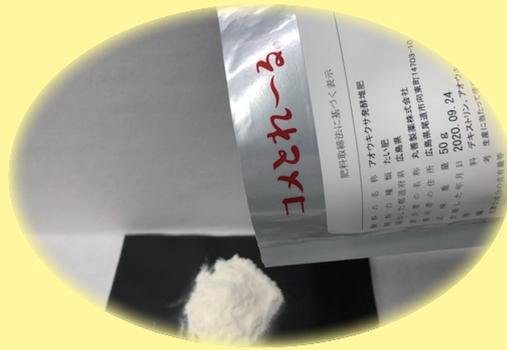
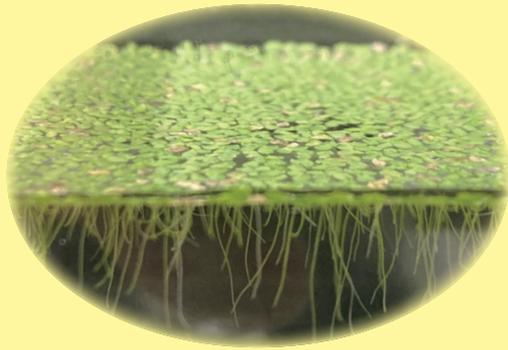
①DREB1A	・ 乾燥・高温・低温ストレス耐性に関与
②DREB1B	・ 乾燥・高温・低温ストレス耐性に関与
③LEA14	・ 乾燥ストレス耐性に関与、高温ストレス耐性にも関与の可能性
④BMY4	・ 低温ストレス適応時のデンプン分解に関与の可能性
⑤PBZ1	・ 低温ストレス耐性と糖代謝を高めるアブシジン酸(ABA)の蓄積に関与の可能性 ・ 高温ストレス耐性にも関与の可能性

コメとれーるは環境遺伝子に大きく影響を發揮します。

※本研究成果について、学術誌 *Plant Biotechnology* に論文掲載決定！

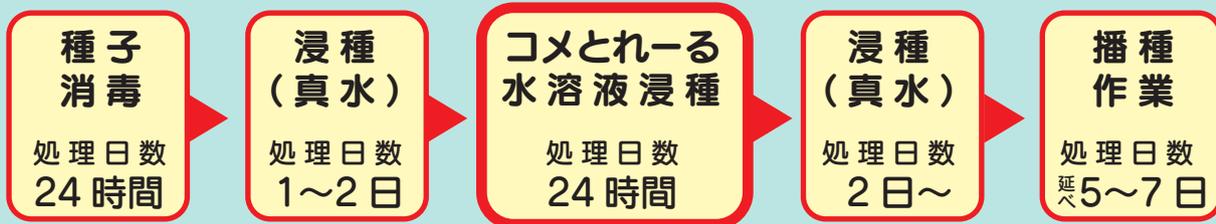
コメとれーる[®] の使用方法

水50ℓに1袋(50g)を溶かし、種子約30kgを24時間浸種します。



☆種子消毒剤(方法)での使用方法

銅剤系で種子消毒を行う場合 (テクリードCF・モミガードCWなど)



★「コメとれーる」浸種温は15~20℃を推奨

★銅剤系で種子消毒する場合は消毒後の浸種開始後1~2日目に24時間「コメとれーる」液に浸種してその後は再び浸種催芽処理をします

温湯消毒や微生物系農薬、一般農薬で種子消毒を行う場合 (タフブロック・エコホープDJなど)



★「コメとれーる」浸種温は15~20℃を推奨

★種子消毒後に軽く水切りを行った後に、「コメとれーる」液に24時間浸種します

使用上の注意事項

- ・浸種時間は、水温と積算時間に注意して時間厳守でお願いします。
- ・低濃度(規定希釈倍数)では効果が低下しますので規定濃度での厳守をお願いします。
- ・溶かした液の使用は1回のみでお願いします。
- ・未使用分の残肥の長期保管は、湿気に注意して冷凍庫での保管をお願いします。
- ・使用時期までの通常保管(30日前後)は直射日光を避け常温でも可能です。
- ・使用した液を処理する際には適正をお願いします。
- ・種子消毒と浸種順番は順守する様をお願いします。

コメとれーる (アオウキクサ発酵堆肥) 処理による 収穫構成要素への影響

(石川県農林総合研究センター)



	試験年 2017		試験年 2018	
	コメとれーる	無処理	コメとれーる	無処理
全重 (kg/10a)	1379	1193	1470	1310
精粍重 (kg/10a)	771	673	598	517
粗玄米重 (kg/10a)	630	551	481	416
精玄米重 (kg/10a)	614	539	479	415
無処理比 (%)	114	100	115	100
穂数 (本/㎡)	468	417	362	344
1穂粍数 (粒)	64.0	64.9	69.3	66.2
総粍数 (千粒/㎡)	30.0	27.1	25.1	22.7
登熟歩合 (%)	90.1	87.5	89.3	81.3
千粒重 (g)	22.6	22.2	22.7	22.5



HPでも商品をご案内しております

製造・発売元

アグリ技研株式会社

〒839-0863 福岡県久留米市国分町1151-1
TEL 0942-45-5800 FAX 0942-45-5200

取扱・販売店